一身田の新聞

発行
一身田地区
社会福祉協議会
編集長
岡本博和

多難な令和2年度　行事中止相次ぐ
東・西豊野地区に影響　コミュニティバス
みんなの便り　投稿・寄稿　ちょっとした話題　待っています

多難な令和2年度

あれも中止　これも中止

七夕祭り　盆踊り大会　敬老の集い　町民運動会　寺内町まつりも

コロナウイルスの猛威は日本を震撼させ、あらゆるコトを破壊した。国内感染者数は1万7000人を超え、世界では638万人を超えた。（6月3日現在）

令和2年（2020年）は日本中が歓喜の輪に包まれるはずであった…。オリンピックイヤーの今年は聖火が日本国中を駆け巡り、世界中からの観光客やマスコミ人で溢れかえる程の人出で賑うはずであった。ほんの数カ月前にこの騒ぎがなければ…。

コロナウイルスの感染の問題は、豪華客船ダイヤモンド・プリンセス号からの報道が始まった2月初めから対岸の騒動ではなくなってきた。

一身田地区でも凧揚げ大会が中止、クラシックカーの祭典「ラフェスタ プリマベラ」も中止に追い込まれた。また、一小、一中の卒業式も時間や人数制限を行い式典を簡素化して行われた。

昨年は一身田地区内で盛りだくさんの行事が行われた

一身田地区自治会連合会（連合自治会）は前年度の決算、事業報告、今年度の予算案、事業計画案を単体自治会長宛に委任状を添付した書面を送り、信任形式で議決した。

中止が決定した主なイベント

4月	クラシックカーの祭典（既に中止済み）
5月	町民球技大会（既に中止済み）
6月	フラワー研修　地区社協主催
7月	七夕祭り　青年団主催
7月	防災研修　地区社協主催
8月	盆踊り大会　実行委員会主催
9月	敬老の集い　地区社協主催
9月	町民運動会　体育振興会主催
11月	寺内町まつり　実行委員会主催
11月	しあわせ和婚　商工会主催
11月	歩こう会　体育振興会主催
12月	寄せ植え研修　地区社協主催

新役員決まる

その他の案件として役員改選が行われ新役員が決定した。

会長に岡野勇治氏、副会長に望木幹雄氏、西山徳造氏、田村憲二氏、会計に本田知行氏が選出された。

ほとんどのイベントが中止

一身田地区社会福祉協議会（地区社協）も連合自治会方式の総会を開催した。

地区社協は地域の福祉や研修、スポーツ、イベントを主管する。

例年行われている町民球技大会、グランドゴルフ大会、敬老の集い、町民運動会、防災研修、炊き出し訓練などすべて中止となった。

自治会主催の盆踊り大会、青年団主催の七夕まつり、寺内町まつり実行委員会主催の寺内町まつり、商工会主催のしあわせ和婚も中止となった。

また、一身田公民館の各講座も5月から9月まですべて休止、10月1日から開講する予定。

今年はコロナウイルスと共生しなければならない年となりそうだ。

換気の悪い密閉空間、大勢の人が集まる密集した場所、密接した間近での会話などの空間（3密）は避けて行動する必要がある。

津市の公共交通計画案が出る

コミュニティバスの運行　東・西豊野地区は？！

津市は令和2年度から6年度までの5ヶ年計画で「津市公共交通網形成計画」を作成した。

計画によれば一身田地区では東豊野（田端地区・西豊野（今井地区）に影響を及ぼす。現在一身田を走っているバス路線の内、三重病院からサオリーナ（津新町大里線）は津市が1，100万円を補助して現状を維持する。

三行（みゆき）から三重会館（三行線）は、三行から東豊野までの区間をコミュニティバスバスに変更する。

新コースは河芸支所を発着点に、豊野～川北団地～今井～わたせいバス～東豊野～国道306号～白塚～せのパーク～河芸支所で週3日、一日4往復、料金は一律200円の予定。

津市は大本となる「幹」は既存のバスを、「枝」となる路線にはコミュニティバスや住民運営主体バスでカバーをする計画。この案の中で一番の課題は『便利と効率』である。バスは走っているが乗客は0人（三行～豊野間は0.5人）の現状や停留所まで遠すぎる、便数が少なく乗りたいときに乗れないなど費用対効果をどう考えるかの問題になる。買い物、病院、官公庁、銀行、鉄道駅など利用者は様々である。

住民運営のコミュニティバスの有効活用や幼稚園や各種学校のスクールバスなども有効利用して日常生活における移動手段の確保に努める余地はあるように思われる。

植えよう花いっぱい

蓮の植え付けを行っているボランティア

ハス寺日本一の高田本山、参詣者の「おもてなし」の一助として寺内町やその周辺にハスを植えました。6月中旬にはスイレンも植え「涼」をいろどりします。

就任ご挨拶

一身田地区自治会連合会　会長　岡野勇治

世界中を震撼させている新型コロナウイルス禍において、私たちの日常生活も自粛と我慢を余儀なくされて来ましたが、ようやく緊急事態宣言が解除されました。

ご町内の皆様におかれましては、まずはご無事とご健勝を心からお喜び申し上げます。

平素は自治会活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて私こと、本年4月から前会長望木幹雄様の後任として一身田地区自治会連合会会長に就任いたしました。はなはだ未熟、浅学非才の身ではございますが選任されましたうえは誠心誠意努めてまいる所存でございます。

各地区自治会長・役員を始め、地域にお住まいの皆様方のご指導、ご鞭撻、お力添えを頂けますよう重ね重ねで恐縮ではございますがよろしくお願い申し上げます。

ところで、今回の新型コロナウイルス禍第一波は徹底した人と人との接触を制限した結果、緊急事態宣言解除に至ったもので、特効薬もワクチンも開発途中であり、専門家からも第二波、第三波の発生が懸念されています。最近の報道からは、「韓国ソウル市内のクラブで一〇〇人超の集団発生」「米国疾病対策センターが今冬第二波が発生し現在よりも被害は拡大すると指摘」「ブラジル等中南米で感染者急増」国内においても「北九州市や北海道で再び急増」等々の記事が目につき私たちの不安をいっそう募っています。

一身田地区においても、地域の皆様が心待ちしていた主要行事が次々と中止になり、役員一同も断腸の思いではございますが、自治会活動は地域の皆様が主役！老若男女一人でも多くの参加者を！地域の皆様が待ち焦がれる諸行事を！を共通の理念として「安全安心の街！一身田」を構築すべく、皆様と共に手を携えて頑張っていく所存でございます。

朝の来ない夜はない！新型コロナウイルス禍が収束し安全が確保された暁には、あちらこちらの諸行事にて、元気いっぱい、笑顔いっぱいでお会い出来る日を楽しみにしております。

末尾になりましたが、皆々様のますますのご健勝、ご発展を祈念いたしまして就任のご挨拶とさせていただきます。

志登茂川の平野防潮水門（平野井堰）

しゅんせつ工事は3月に完了

昨年12月から行われていた志登茂川の平野防潮水門の上流部の川底に堆積した土砂の撤去作業が3月完了した。これによって土砂が取り除かれた。

今回の浚渫工事は平野自治会（会長　中尾善孝氏）や平野水利組合の要望で行われる事となった。自治会長の中尾氏は「3年ほど前に猛烈な日照りが続き田んぼに水が入いらず農家や住民は困ってしまった。平野井堰の土砂を取り除いて水を貯めなければ死活問題になる事から川の管理者である三重県に要請し、今回に至った。」と話された。

過去何度も痛い目に合っている志登茂川の改修工事は一身田住民の悲願である。

三重県津建設事務所事業推進室流域一課の山鹿氏によれば「志登茂川全体の改修計画はあるが、まずは川下3．5㎞を整備する。市民の安全・安心な街づくりに少しでも役立てたい」と話された。

志登茂川流域には至る所で旧堤防跡が残っている。早い除去が望まれる。

志登茂川のしゅんせつ工事3月完了した

みんなの便り

高田本山専修寺内には、かつて「講」という文字がつく建物が多数存在していた。「講」とは、もともと寺院内で仏典を講読・研究する僧の集団を指すものであったが、時代が経るにしたがい、仏典の講読を中心とする仏事（講会）を指すようになった。

現在、寺町通りの高田会館が建っているあたりには、西から「知恩講」「和順講」「七里講」「赤須賀講」と呼ばれる建物が林立していた（写真）。その中で、「七里講」について述べてみたい。伊勢国における浄土真宗高田派の布教活動は、鎌倉時代、第三世顕智上人（けんちしょうにん）によって、三日市（鈴鹿市三日市）で始められたとされる。顕智上人の教えに帰依した人々は、その遺徳に報謝する団体として『講』を発足させた。それが「顕智講」又は「四日講」である。

寄稿

「七里講（ななさとこう）」

長谷川哲也

時代は下って寛正元年（1460）、第十世真慧上人（しんねしょうにん）は、伊勢国大矢知や北小松において（共に四日市市）、布教活動を始められた。その頃、「顕智講」を中心とする近郷七里【（上野、高飛（石薬師）、竹野、平田、高宮（加佐登）、庄野、西富田】の人々との出会いがあった。寛正五年（1464）、真慧上人は彼らの偉業を称え、七里講という講名を下賜され、御書を授けられた。

高田本山専修寺と七里講との関係をみていくと、主に以下のことがあげられる。

○2・5・11月以外の毎月15日、灯明料を持参して本山へ赴き、賜春館で法主に対面し、お日中を務める。

○本山警護と法主警備。法主が御影堂や墓所等へ参拝される時には、㊥の紋の裃を着て、法主の前後を警備する。

○江戸時代においては、如来堂や唐門建設にあたり尽力した。

このように七里講は、真慧上人から講名を下賜されたのを節目として、以来550年余り、法灯を守りながら、高田本山専修寺を支え、本山の中で重要な位置を占めてきたといえる。建物七里講は、講員の詰所とされていたと考えられる。

【参考文献】
故平松令三氏所蔵「高田本山図絵」大正15年刊
筧口山　善照寺（けんこうさん　ぜんしょうじ　鈴鹿市庄野町）ホームページ
大塚竹生「西冨田村とその周辺　私の郷土史」昭和57年6月　東海印刷株式会社

一身田の魅力を写真で発信

三重を撮る写真家 多田良平

私は三重県の風景を毎週のように撮りに行き、インターネットを通じて三重の魅力を写真で発信しています。一身田を撮りたいと思った理由は風情ある町並みと高田本山、伊勢木綿の存在でした。町内を歩くと様々なものに目が行きます。歴史ある木造家屋があり、街灯の外観がレトロチックで美しく、個人宅の入口が水路に掛かる橋になっていたりと、現代には失われつつある光景が一身田にありました。その町並みをただ撮るだけでは魅力を出し切ることが出来ないと思い、伊勢木綿の着物姿で歩く光景を撮りました。伝統工芸品である伊勢木綿を国宝の高田本山と一身田の町並みと組み合わせて撮ることで現地の魅力を凝縮した写真に仕上げることが出来ました。その写真をインターネットに公開したところ、現地へ行きたいという声を多数頂きました。1人でも多くの方が一身田を含め、三重の風情や町を好きなってくれるような写真を撮り続けたいです。

住みよい街にするために

住民からの要望・提言

護岸堤防の改修工事のお願い

毛無川は亀裂部分が多くあり、豪雨時に亀裂より水が吹き上げる状態が見られます。堤防内の土石が懸念されるとの指摘が住民より出ています。JRより下流、平野地区に及んでの調査から取り組んでいただきたい。部分改修地域と全面改修が必要な地区を明確にする調査として欲しい。

一中前の通学路に街路灯の設置を要望

一身田中学校は田んぼの中にあり、日没後道路の照明がありません。照明の新設を要望します。

中西万喜夫さんより

もちろん、改修工事の実施を要望します。

コミュニティバス路線について一身田地区の詳しい内容が知りたい。

田村憲二さんより

公民館からお知らせ

新駐車場は避難通路を設置

公民館講座9月まで延期

地域の皆様におかれましては、一身田出張所・公民館の新築に伴う工事期間中、大変御不便をおかけしましたが、皆様の御協力により本年4月から新しい駐車場が利用できるようになりました。

整備されました駐車場は、車いす区画を含めて計30台駐車できます。また、一身田公民館が指定避難所であることから、隣接するぜにや一身田店のご協力のもと、一身田出張所・公民館駐車場と同店駐車場をつなぐ避難通路（幅約2m）を整備しました。

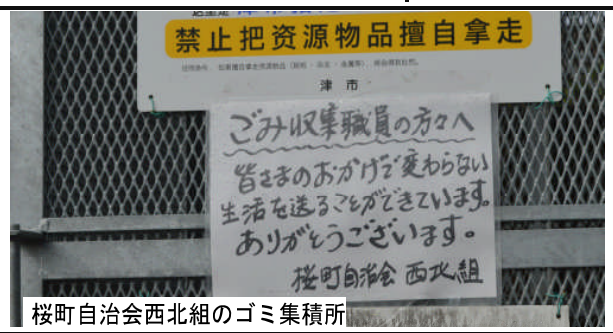
○新型コロナウイルスの影響による公民館講座等の活動状況

現在、感染防止のため、公民館貸館や利用の制限等でご迷惑をおかけしています。

また、公民館主催の教養セミナー等の開講を延期し、10月から3月に期間を変更することになりました。この状況から、今年度の10月に予定しています文化祭は、予定どおりに開催することが困難な状況です。

ぜにや一身田店と公民館・出張所をつなぐ避難通路

今後の状況によって対応が変更になりますので、改めて連絡をさせていただきます。



桜町自治会西北組のゴミ集積所

何気ない日常生活の中でホッとする掲示板です。（情報提供　石川正浩さん）

寺内町の館への就任に当たって

小林伸生

6月より寺内町の館で勤務させて頂く事になりました。鈴木館長、関係者の方々と共に頑張って行きたいと思います。

私はパナソニック社で技術者として長年製品の開発設計に携わってきました。その後13年程奈良でパソコン教室を運営し、現在は一身田平野で一寿会会長を担っています。

この度、館への就任前に色々な事をお教え頂き、寺内町には専修寺を中心に誇れる歴史と多くの遺産があり、この価値を広く広めるのが私どもの役割であると痛感しました。専修寺が国宝に成り高田本山の知名度は大きく向上しましたが、残念ながら寺内町の活性化は伴っていないのが否めない現状であります。最近は高齢者も含め多くの方がスマホを活用し、各種情報発信の主体も紙媒体からSNSに変わりつつあります。またネットの可能性を大きく高める通信方式5Gサービスも開始されました。この様な情勢を鑑み、過去の良い物は踏襲しつつ、私の経験も活かしながら新しい取り組みに挑戦していきたいと思います。皆様からの積極的な情報提供とご協力、ご支援をお願いします。

もっと本山や寺内町を知ろう！

自慢の町を熱く語ろう！

岡本博和

平成29年11月28日、突然の吉報が届いた。高田本山の御影堂と如来堂が国宝に指定されたと。奇しくもこの日は5回目となる「地域懇談会」が開催される日で、市長の報告で会場は歓喜に沸いたことを鮮明に覚えている。地元民として、「もっと本山や寺内町を知ろう！自慢の町を熱く語ろう！」をテーマに、編集委員はほっとガイド会の岡本靖弘氏（75才）に、その魅力の紹介と案内をお願いした。

寺内町の館で知ろう！

高田本山や寺内町全体のことを知るには寺内町の館のジオラマを見るのが手っ取り早い。

この模型は1750年代の絵図を参考に寺内町を復元したもので、一身田大火（1645年）で本山が罹災、その後に再建された物を忠実に再現している。

本山の伽藍配置は鐘楼から始まった？！

本山の悲劇は火事だけではなかった。徳川幕府（3代将軍徳川家光）は本山の失態に目を付け、宝物を差し出させようとしたが、ときのご法主は自分の命に代えてこれを守り通した。

災難や悲劇の連続のこの時期、復興の先頭に立ったのは、前法主のお裏方（奥様）であった。実家の藤堂家に支援を取り付け、最初の一歩が7回忌を迎えた1652年鐘楼の建立だった。

その後、藤堂藩から3万1千坪の広大な土地を寄進され約370年を経て今の伽藍配置となった。（主な建物の完成年）

1658年　藤堂藩が土地を寄進
1670年　御影堂が完成
1704年　この頃山門が完成
1748年　如来堂が完成
1800年　通天橋が完成
1844年　唐門が完成

１７５０年頃の一身田模型　寺内町の館

次回に続く